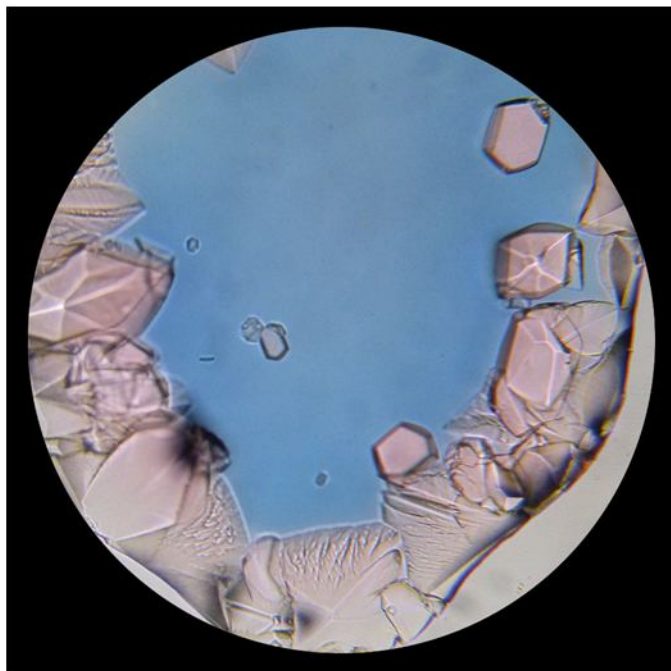


「塩化コバルトの再結晶 (3)」

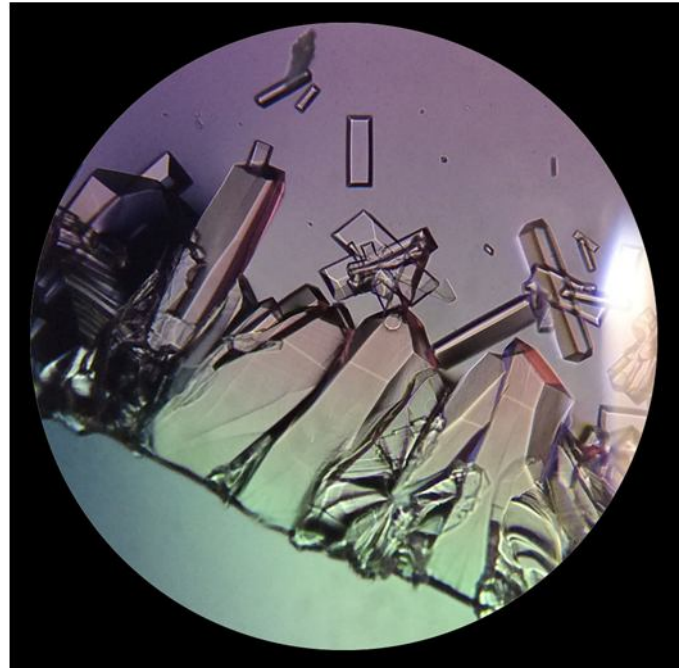
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

塩化コバルト (II) の再結晶を顕微鏡で観察する活動は、実に魅力的である。子どもたちが顕微鏡にくらいついて、教室中から歓声があがる一瞬だ。水滴の中央付近から単結晶が出現することはなかなかないが、水滴の縁 (空気との境界線) から、たくさんの結晶が同時に出現する様子は、頻繁に見られる。鉱物でいえば「群晶」という状態だ。子どもたちの撮影した iPad にも、すばらしい画像がたくさん残っていた。

長した様子だ。まるで森の中の湖のようで、非常に美しい。(このページの写真はすべて児童撮影)



こちらは、直方体のような美しい結晶が、次々と出現している。縁から離れた場所に現れた単結晶も、成長すると融合して、群晶になる様子がよくわかった。



上の写真から 2 分後の結晶である。結晶が成長するにつれ、残った水滴の色が、赤→青に変化してゆくこともわかった。神秘的な顕微鏡下の「宝石」子どもたちは、何度も何度も観察・撮影に挑戦していた。

この二つの写真は、水滴の縁から葉脈状の結晶が成